
見下ろせば君がいる。

大橋結菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見下ろせば君がいる。

【Nコード】

N0114B

【作者名】

大橋結菜

【あらすじ】

FFXⅡまでの間の話でティータ目線の話です。

見下ろせば君がいる。スピラで色々な人に囲まれて幸せそうに笑いながらもどこか寂しそうな顔をしている君がいる。

——いえゆい——

——のぼめの——

——れんみり——

——よじゅよじ——

大音響で響く祈りの歌で目が覚めた。一面花畑のきれいな世界だ。

「そっか、オレ——。」

シンと戦って、祈り子が消えたから。オレも異界に辿り着いたんだっけ。どうりでユウナの親父さんやらアーロンやらオレの親父やらがいるわけだ。……野郎ばかりだな。

「目が覚めたか？」

アーロンが声をかけてくる。

「ぼちぼちっスね。」

「まさか君までここにくるとはね……。」

ユウナの親父さんだ。

「こんちわっス！ユウナの親父さんっスよね？」

につこりと笑って頷いた。

「おうおう！口の聞き方も知らねえでやがる。もういちど教育しな

きやなあ！」

「親父……。」

「なんでえ、化け物みたような顔しやがって。何年ぶりだろう。こうやって話すのは。」

「まあいいや、俺あ散歩でもしてくるぜえ。」

「なんなら4人でいかないか？なあアーロン。」

「俺はいいが……。」

「3人で行ってきていいっすよ！オレはここにいろっすから。」

「だ、そうだ。」

「本当に良いのかい？」

「いかないっす。」

「おらあ！早く行こうぜえ！」

「かわってないな。」

「なんか言ったか、アーロン？」

「いいや。と顔で表し3人は去った。」

実はティードには試してみたいことがあった。異界からスピラをユウナを見ることができるのか。

ティードはまず川に行ってみた。昔から川には下界が見えるというし。案の定スピラが見えた。

が、しかしあの広いスピラだ。ユウナを探すことは難しいかもしれない。まだビサイドにいるかもしれないといい淡い期待を抱いて覗いてみる。すると、一際目立つ人だかりのあるところ。その中心にユウナはいた。まだ時間はそんなに経っていないはずなのにすごく久しぶりに顔をみるような気がする。

ユウナのおかげで、スピラは永遠のナギ節を手に入れた。みんなが笑ってる。

でも、ユウナは？ユウナは一人になるときだけいつも切なげな顔をしてる。寂しいって言ってる。声には出さないけど。だから毎日欠

かさず海に向かって指笛を吹いているんだろう？
………オレを呼んでる。心の中で精一杯大きな声をだして。叫んでくれてるんだろ？

『会いたい』

もう会えない。そう思うと涙があふれてくる。でも、あきらめたくはない。ユウナもきっと同じ事を思っているだろう。オレからは何もできないから、ここから指笛を吹き続けるよ。

——ユウナがオレを召喚するその日まで——

（後書き）

意見・感想・批評などいただけると嬉しいです。よろしく願います！

大橋 結菜

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0114b/>

見下ろせば君がいる。

2010年10月28日07時35分発行